

新聞各紙が報道 万博記念基金事業に関心高まる

関西・大阪21世紀協会は、平成29(2017)年度の日本万国博覧会記念基金助成事業として、合計57件・総額9,200万円の助成を決定し、4月17日、大阪国際会議場で記者発表を行いました。当日はテレビ局や新聞社など11社16名の記者が参加しました。

記者発表では、平成29年度助成事業の中から、**①**元サッカー日本代表主将の宮本恒靖氏が代表発起人となり設立されたNPO法人による、日本とボスニアの子供たちがサッカーを通じて国際交流する事業(発表者 宮本恒靖 NPO法人Little Bridge代表理事)、**②**現代美術家・舞台演出家のやなぎみわさんが自身の美術作品として制作したステージトレーラーを用いて、上演から舞台が撤去されるまでを作品とした野外演劇作品「日輪の翼」の公演(発表者 やなぎみわ 一般社団法人MIWA YANAGI OFFICE美術家/演出家)、**③**熊本城を会場として、熊本地震で被災された方を招待し復興に向けたメッセージを発信する音楽イベント(発表者 三城賢士 今こそ音楽のチカラ実行委員会実行委員長)につ



事業を紹介する宮本恒靖氏

いて、それぞれ代表者に概要や事業にかける思いなどを語っていただきました。

その後、当協会堀井理事長による助成金目録の授与や質疑応答が行われ、個別の事業に対して記者から質問が出るなど、関心の高さが伺えま

した。翌日は新聞4紙に掲載され、助成事業の周知に繋がりました。また、後日、国外への助成事業(オークリッジ国際友好の鐘 平和の鐘楼の建設)についてのフォロー取材があり、新聞一面トップ記事(産経新聞)として掲載されました。



堀井理事長(左端)より助成金目録を受け取った各団体代表



記者発表の様子

原爆開発の地 平和の鐘再び



①オークリッジの公園で2014年に撤去される前の鐘楼(ワブルリ茂子さん提供)
②再建される鐘楼と鐘のイメージ
©Ziad Effas Demian, ATA-APA

米オークリッジ 鐘楼復活へ

大阪万博基金も支援

市民に特別な意味
「鐘が生まれたときは連戦で、夫が亡くなったときも鐘の音が聴こえ、救ってくれた。ここで鐘楼が建てられ、市民も、21世紀の平和を祈る。鐘楼を建てたのは、市民の願いを叶えるため。市民の願いを叶えるため、市民の願いを叶えるため。」

ワブルリ茂子さん

産経新聞 平成29年5月9日(夕刊・一面トップ) ※転載不可

平成29年度助成先事業のご紹介

57件の助成事業のうち、4～5月に実施された事業の一部をご紹介します。

中之島をウィーンに! 中之島発、大阪＝ウィーン交流コンサート

事業者：一般社団法人日本テレマン協会

交付決定額：120万円

実施期間：平成29年4月18日(火)、7月11日(火)、10月13日(金)、
平成30年1月16日(火)

実施地：大阪市中央公会堂

バロック時代から古典期にいたる18世紀の音楽を専門とし、古楽器(作曲時の楽器)を使って演奏する日本テレマン協会が、18世紀のオーストリア国立図書館の演奏環境に近く、音の響きも優れている大阪市中央公会堂で演奏会を開催。「中之島をウィーンに!」をスローガンに、関西文化の活性化を目指します。

4月18日の演奏会では、
400名の聴衆が集まり
18世紀の音色に耳を傾けました。



(写真提供:一般社団法人日本テレマン協会)

メリカルヴィア高校・佐野高校国際交流事業

事業者：公立メリカルヴィア高校(フィンランド)

交付決定額：70万円

実施期間：平成29年5月9日(火)～16日(火)

実施地：大阪府立佐野高校、JMSアステールプラザ(広島)

フィンランドの高校生20名と日本の高校生による青年国際交流事業。

佐野高校(大阪府泉佐野市)では、生徒と共にコミュニケーション能力を確認するための授業に参加すると共に、茶道部の茶室では、茶道体験を通して和の作法について説明を受けるなど、交流を深めました。

広島では、平和公園や平和資料館を訪れ、日本の観点から先の戦争について学び、国際協力や国際平和についての議論を深めることができました。さらに宮島厳島神社を訪れた際には、伝統建築を通じて日本文化についても学びました。

(写真提供:メリカルヴィア高校)



(写真提供:メリカルヴィア高校)



(写真提供:大阪府立佐野高校)